



# 光星 2回に集中打

## 十和工、先制の好機逃す

【評】2点を先制した八学光星は二回、打者一巡の猛攻で一気に突き放した。3連続四球などで好機を広げ、森の適時二塁打など長短4安打を集

めて6得点、試合を決めた。投手陣は6人の継投で無安打零封。無失策と堅守も光った。十和田工は初回、犠打や盗塁を絡め三塁に走者を進めたものの先制できず、二回以降も打線が沈黙。3失策と守備の乱れも響いた。

「こそぞ」で持ち味の活躍で監督の期待に応えた。持ち味だということこそという時に決めるバクティンゲで勝利を呼び込み、2本の内野安打に1盗塁と機動力の高さもアピールした。中学時代は大阪の強豪クラブチームに所属していた。高校は、甲子園常連校でありながらも、優勝に手が届かない八学光星をあえて選んだという。「自分の代で優勝したい」と臆さず語る奥名。まずは県の頂点を目指し闘志を燃やす。



【十和田工—八学光星】2回裏、八学光星2死満塁、奥名が右中間に2点適時打を放ち8—0とする＝はるか夢